

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立日新小学校 第6学年

実施児童数（ 78人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数、中学校は国語、数学及び英語。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については、国語及び算数・数学においては、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。英語においては、選択式、短答式及び記述式の問題に加え、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口頭式によるものとする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は、泉佐野市、大阪府よりも若干低い。全国と比較すると6.8ポイント低いいため、国語科に関しては、課題が見られる。
- ・分類、区分ごとに見ると、全ての区分において全国よりも平均正答率が低い。特に、学習指導要領の領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、その差が約10ポイントあり、基礎基本の定着に大きな課題が見られる。また、評価の観点「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・技能・理解」についても、その差がそれぞれ6.7、9.7ポイントとなっており、基礎基本の学習の定着に加えて、国語科の学習への関心そのものに課題が見られた。

平均正答率（本校 57／泉佐野市 59／大阪府 60／全国 63.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>○概ね理解できていた項目</p> <p>① 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること。 1二 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する (65.4/63.4)</p> <p>② 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。 2一(2) 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□□□に、疑問に思ったことの②に対する答えになるように考えて書く (76.9/75.9)</p> <p>●課題が見られた項目</p> <p>① 図表やグラフなどを用いた目的を捉えること。 1一 公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する (64.1/71.2)</p> <p>② 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。 2一(1) 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□□□に入る、疑問に思ったことの①に対する答えとして適切なものを選択する (74.4/80.7)</p>	<p>③ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること。 3三 【インタビューの様子】の□□□に、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く (60.3/68.2)</p> <p>●●特に課題が見られた項目</p> <p>① 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。 1三 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く (15.4/28.8)</p> <p>② 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと。 1四(1)ア 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の□□□部アを、漢字を使って書き直す（調査のたいしょう） (23.1/41.9)</p> <p>1四(1)ウ 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の□□□部ウを、漢字を使って書き直す（かんしんをもってもらいたい） (24.4/35.6)</p> <p>3 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。 1四(2) 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す (34.6/47.8)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	67.5	76.9	◇	9.4
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	71.3	78.1	◇	6.8
国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	56.3	68.5	○	12.2
国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	50.0	71.4	○	21.4
解答時間は十分でしたか(国語)	61.3	74.2	○	12.9

○「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか」の設問では、全国を大きく下回っている。同様の設問では、国語科だけでなく、どの教科においても課題が見られる。授業の構成を工夫するなどして、学習と日常との関連を児童に感じさせるとりくみが必要である。

○「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」の設問では、全国を下回った。これについては、授業改善が有効な方法だと考える。まずは、自分の考えを表現する機会を意図的に増やすなどしたい。

○「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」の設問では全国を大きく下回った。一つ上の設問で、表現することにまず課題があった。そこをクリアできないとここでも難しいため、上記と同様にまずは、自分の考えを表現する機会を意図的に増やすなどの授業改善にとりくみたい。

○「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」の設問では、全国を大きく下回った。これについては、授業内で扱う文章や資料を多面的にとらえる読み方ができていないことがわかる。ただ読んでいるだけにならないように、指導者が目的を明確にして多面的な読み進め方をしていく必要がある。

○「解答時間は十分でしたか(国語)」の設問では、テスト時間が全くだりていなかったことがわかる。一因として、同様の分量の国語科の問題文をこれまでにほとんど扱っていないことが挙げられる。どこを読めばいいのか、要旨はどこなのかをつかめなかったのだと考える。日ごろからある一定の分量の問題を、目的をもって読ませるとりくみをしたい。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率を見ると、泉佐野市からは5ポイントのプラス、全国と比較しても3.4ポイントのプラスで、概ねできていると考えられる。
- ・分類、区分で見ると、ほぼすべての項目において全国平均正答率を上回っているため、領域や出題形式にとらわれることなく概ね理解できていると考えられる。

平均正答率（本校 70 / 泉佐野市 65 / 大阪府 66 / 全国 66.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>◎よくできていた項目</p> <p>① 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。 1 (3) 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く (53.2/43.9)</p> <p>② 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる。 2 (2) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く (93.5/78.6)</p> <p>③ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。 2 (4) 洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、$6 + 0.5 \times 2$を計算する (71.4/60.1)</p> <p>④ 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる。 4 (2) 何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く (77.9/68.6)</p> <p>⑤ 場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。 4 (3) 残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する (74.0/62.6)</p>	<p>○概ねできていた項目</p> <p>① 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。 3 (3) 被除数と除数にかけ数や割る数を選び、$600 \div 15$を計算しやすい式にして計算する (79.2/74.9)</p> <p>② 目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる。 4 (1) だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ (85.7/82.7)</p> <p>●課題が見られた項目</p> <p>① 図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる。 1 (2) 二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせつつることができる形を選ぶ (54.5/60.3)</p> <p>●●特に課題が見られた項目</p> <p>① 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。 3 (2) 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなになるのかを書く (18.2/31.1)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の授業の内容はよく分かりますか	87.5	83.5		4.0
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	63.8	76.5		12.7
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	81.3	79.1	○	2.2
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	70.1	82.0	○	11.9
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	77.6	87.0	◇	9.4

- 「算数の授業の内容はよく分かりますか」の設問では、全国を上回った。算数の授業はよくわかっていることがわかるが、この後の設問との関わりを見ていくと課題が見られる。
- 「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の設問では、全国を大きく下回った。算数の授業は分かっている、それらが日常と結びついていると感じられていないことがわかる。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」の設問では、全国を上回った。やはり、授業としての算数では、意欲が高く、理解も高いことがわかる。机の上だけの勉強ではなく、学習と日常との関連を児童に感じさせるとりくみが必要である。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の設問では、全国を大きく下回った。当該学年の児童の大きな課題として、以前からあげられていた部分で、様々なアプローチをしているがまだまだ課題のある部分である。根気よく最後までやり切る指導の徹底をさらに進めたい。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の設問では、全国を大きく下回った。昨年度より、ノートの型を統一し、算数科を中心に全校でとりくみを推進してきた。成果が出るにはもう少しとりくみを重ねないといけないと痛感した。今後は、従来のノート型の指導に加えて、“目的をもった”“自分のための”ノートの使い方についても研究を進めたい。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

児童質問紙調査より、本校児童の意識調査を4択（1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）で選ぶものについては、選択肢1と2は同じ肯定的な回答と捉えて回答率を示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きいなど特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食の摂取率はほぼ全国平均であるが、就寝時刻や起床時刻が不規則である。 ○家の人と学校での出来事について話をする機会が全国に比べ少ない。 ○地域行事への参加や地域のことについて考える割合は全国に比べて15ポイント以上低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べていますか (95.1/95.3) ○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (66.3/81.4) ○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (85.0/91.6) ○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか (72.5/77.4) ○今住んでいる地域の行事に参加していますか (52.5/68.0) ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか (38.8/54.5)
【家庭学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で計画を立てて勉強する割合は全国に比べて10ポイント以上低い。 ○家庭での学習時間が2時間以上の割合は全国に比べ高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか (57.6/71.5) ○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） (37.5/29.3)
【学校での学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の授業等において、コンピュータなどのICT機器の使用頻度や児童の活用意欲も全国に比べ低く、積極的な活用が必要である。 ○主体的・対話的で深い学びができる授業の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか (94.4/89.5) ○5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週に1回以上使用しましたか (18.8/30.6) ○授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか (75.1/86.5) ○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか (61.3/77.7)
【自己肯定感】	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いは全国よりもやや低いが、「夢や目標」「人の役に立つ」などは全国を上回っている。 ○達成感や挑戦する意欲の面では全国よりもやや低い。成功体験を積ませていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分には、よいところがあると思いますか (77.6/81.2) ○将来の夢や目標を持っていますか (86.3/83.8) ○人の役に立つ人間になりたいと思いますか (96.3/95.2) ○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか (92.5/95.2) ○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか (67.6/79.0)

本校の取組

◎これまでの取組

2016年度まで本校では、児童の学力実態を踏まえ、「自分の考えをもち伝え合うコミュニケーション能力の育成」を研究主題として、4年間、国語科を中心に研究授業や公開授業等を行い教員の授業力の向上に取り組んできました。2017年度からは、算数科を中心に研究を進め、これまで、基礎基本の定着やそれらを活用する力の育成に努めてきました。

昨年度からは「自ら考え、表現できる子」の育成を研究主題に掲げ、自力解決型の学習形態をとり入れながら、課題を自分で解決する力をつけられるように指導してきました。また、少人数による個に応じたきめ細かな指導や基礎・基本を徹底した学習や子どもたちの学習態度を養っていくための学習規律の徹底などの取り組みも進めてきました。さらに、授業の時間だけでなく、朝の学習時間や宿題の問題の出し方などにも工夫をし、数学的な思考力がより効果的につくように取り組んできました。算数をより身近に感じられるような問題場面の設定や、日常の中で活かされている算数を意識できるような問いを考えるようにしてきました。

今年度の全国学力調査の算数においては、全国の平均正答率を大きく上回ることができました。そこには、日ごろからの算数科に対する取り組みが活かされた結果だと考えられます。しかしながら、国語においては、全国の平均正答率を大きく下回りました。算数科だけでなく、国語科をはじめ、他の教科に対する取り組みの広がりをもたす必要があります。

また、児童質問紙からは、「家庭での計画的な学習」に課題があることが見られました。これまでも同様の課題が見られていたため、本年度は、4月に“家庭学習のてびき（日新小版）”を全家庭に配布し、5月の家庭訪問では、全家庭に対しててびきの説明や家庭学習の重要性、進め方などについて話をしました。本年度の取り組みが今後の本校児童の育成に効果を発揮すると期待しています。

◎これからの取組み

国語

国語においては、全ての区分において全国よりも平均正答率が下回っていた。特に、学習指導要領の領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においての差が大きく、基礎基本の定着に大きな課題が見られた。また、国語科の学習への関心そのものにも課題が見られた。

これらの結果を受けて、本校では、漢字の学習など国語に関する基礎基本の定着をまず重点的に目指すことにした。それぞれの学級や学年で進められている漢字学習の方法の在り方を見直すこと、指導法を系統立てて組むこと、家庭学習での漢字学習をどのようにとりくませるかなど全校で取り組んでいく。さらに、文を書くことに対しては、資料から必要な情報を読み取ることや文字数制限のある問題に取り組むことから始めていきたいと考えている。

算数

算数においては、ほぼ全ての区分において全国よりも平均正答率が上回っていた。しかし、他者の考えを理解し活用することには課題があり、それも、単元によって差があるという結果が出た。図形領域では他者の考えを説明したり活用したりできているが、数と計算の領域では大きな課題が見られた。本校で進めている問題解決的な学習の成果と課題が見られた結果だと感じている。図形領域では、多くの授業で問題解決的な学習が実施され、多様な考えの交流がされているのに対して、数と計算の領域では、知識を着けることが授業の大枠として設けられている現状があった。

それらを受けて、どの領域においても、子ども自身が考え、子ども同士がつながる授業を目指して進めていきたい。目指す授業のために、学習のめあてについても、学習が「子どものめあて」によって始まる授業に取り組んでいきたい。子ども自身が学習のめあてをもって授業が始まり、その中で、子どもが考え、子ども同士がつながる授業を目指して、校内全体で引き続き研究を進めていきたい。